

看護におけるフィジカルアセスメントの意義

- 生活する者を支援する
 - ADL 周りとの関わり
- その根底には生命維持の確保
 - 急変に気づくことができる

急 変

- 予定されていた行為を中断してまで割り込ませなければならないような最優先すべき事態の出現
- 生命維持に大きな影響を及ぼす出来事

背景

- 緊急性の高いアセスメント項目ほど、真似ができない
- なぜならば、生死に直結し得る身体機能は、意志によって調整されることがあっては危険であるため。
- すなわち、意志を反映させることが不可能である(息を堪える、という一過性の作用は例外的であるが、限定的でもある)。

Rapid Response Systemのコール基準 1

- 呼吸促迫、上気道狭窄
- 呼吸数30/minより多い、または6/min未満
- 酸素投与下でSpO₂90%未満、会話困難
- 治療によっても収縮期血圧90mmHg未満
- 脈拍数130/minより多い
- 説明できない意識低下
- 譫妄、痙攣重責
- その他
 - (患者がどうも変、対応困難な疼痛、治療が無効、など)

Buist *et al.*, 2002